

第1回「旧上野ふれあいプラザ跡地活用デザイン会議」会議録

1. 開催日 令和8年2月10日（火）
2. 場所 ハイトピア伊賀5階学習室①AB
3. 出席者 浅野聡、中井孝幸、武保学、笹山忠臣、伊藤尚美、岡森史枝、石橋広保、谷武尚、来光美希、山本真希子
5. 事務局 稲森市長、産業農林部 堀川部長、産業農林部 永岡次長
中心市街地推進課 森中課長、中澤主幹、中林主幹、前川
6. 次第
 1. 委嘱状の交付
 2. 市長挨拶
 3. 委員長及び副委員長の選出
 4. 委員自己紹介及び事務局紹介
 5. 諮問
 6. 現場視察
 7. 意見交換

7. 議事録

（午前9時00分開会）

（事務局）

おはようございます。

定刻になりましたので、ただいまより第1回上野ふれあいプラザ跡地活用デザイン会議を開催いたします。本日はご多忙のところお集まりいただき、ありがとうございます。本日の進行を務めます事務局の森中です。どうぞよろしく願いいたします。

なお、本会議は伊賀市審議会等の会議の開催に関する要綱第3条により公開しており、傍聴および報道関係者の撮影を認めておりますので、ご了承願います。また、本会議の内容は会議録として公表いたしますので、あわせてご了承願います。

まず、会議の成立についてご報告します。委員の出席数は10名、全員出席であり、委員の過半数が出席していますので、旧上野ふれあいプラザ跡地活用デザイン会議設置要綱第6条第2項に基づき、会議は成立しています。

続いて、席札のご確認をお願いします。それでは議事に入る前に、本日の配付資料の確認をいたします。（本日配付資料の確認）お手元の資料に漏れはございませんか。後ほど資料の過不足がありましたら事務局までお声がけください。

それでは、議事に沿って進めます。事項2、委嘱状の交付です。稲森市長より委嘱状をお一人ずつお渡しします。お名前をお呼びいたします。

國學院大學 教授 浅野聡 様

(市長)

浅野聡様、旧上野ふれあいプラザ跡地活用デザイン会議委員を委嘱します。委嘱期間は令和8年2月10日から、当該会議が答申されるまでとします。

(事務局)

愛知工業大学 教授 中井孝幸 様。

合同会社きりん 代表 武保学 様。

ギャラリーやまほん 笹山忠臣 様。

テキスタイルデザイナー 伊藤尚美 様。

伊賀市教育委員会 岡森史枝 様。

伊賀市中心市街地活性化協議会委員 石橋保広 様。

公募委員 谷武尚 様、来光美希 様、山本真紀子 様。

委嘱状の交付は以上です。皆様、どうぞよろしく願います。

続きまして、事項3。本会議の開催にあたりまして、市長よりご挨拶を申し上げます。

(市長)

おはようございます。本日は第1回の旧上野ふれあいプラザ跡地活用デザイン会議開催にあたり、ご就任いただきましたことを心より感謝申し上げます。

旧上野ふれあいプラザの跡地は、長年にわたり市街地の停滞を象徴する場所となっており、多くの市民の皆様から不安や心配の声をいただけてきました。これまでの経緯を踏まえつつ、未来志向で跡地活用を着実に前進させるためには、多様な視点を持つ皆様にご参加いただくことが重要だと考えています。学識経験者や地域に根ざして生活し商いをされている方々、市民公募で選ばれた方々など、多様な視点を持った皆様が集っていただいたことを大変心強く思います。

公募で選ばれた市民委員の皆様には、応募が多数あった中で選出に苦慮したことも申し添えますが、本日から市民参加で議論を進め、跡地が市民にとって居心地のよい場所となり、人が集う呼び水となるように、ハードとソフト両面から幅広い議論を期待しています。長年止まっていた課題を皆さまと一緒に前に進めてまいりたいと思いますので、どうぞよろしく願います。

(事務局)

ありがとうございました。続きまして、事項4、委員長および副委員長の選出に入ります。設置要綱第5条に基づき、委員長及び副委員長を委員の互選で選出します。まず委員長の選出を行います。どなたか推薦はございますでしょうか。

(武保委員)

本会議の趣旨に鑑み、学識的知見も深い浅野委員を委員長として適任であると考え、推薦いたします。

(事務局)

ありがとうございます。ただいま、浅野委員を委員長にとのご推薦をいただきました。

皆さま、ご異議ございませんか。

(委員)

異議なし。

(事務局)

ありがとうございます。それでは、皆さま、承認の拍手をお願いいたします。(拍手)

ありがとうございます。委員長には浅野委員が決定いたしました。

続きまして、副委員長を選出に移ります。どなたかご推薦はございますでしょうか。

(委員)

本会議の趣旨に鑑み、学術的知見も深い学識経験者の中井委員が副委員長として適任であると考え、推薦いたします。

(事務局)

ありがとうございます。ただいま、中井委員を副委員長にとのご推薦をいただきました。

皆さま、ご異議ございませんか。

(委員)

異議なし。

(事務局)

ありがとうございます。それでは、皆さま、承認の拍手をお願いいたします。(拍手)

ありがとうございます。副委員長には中井委員が決定いたしました。それでは、選出された浅野委員長・中井副委員長は、前方の席へ移動をお願いします。

続きまして、事項5、委員の皆様にご自己紹介をお願いいたします。委員長、続いて副委員長の順でお願いします。

(委員長)

おはようございます。先ほど委員長に選出いただきました浅野です。ずっと三重大学に勤務しており、現在は三重大学を退職し、國學院大学に勤務しております。今回の検討課題である伊賀上野城下町のまちづくりにつきましては、合併前の上野市の時代からいろいろ関わらせていただいております。現在は伊賀市の景観審議会、歴史まちづくり協議会、空き家対策協議会に携わっています。これまでの活動から旧上野ふれあいプラザ跡地活用の検討に関して稲森市長からお願いをいただきました。皆様と一緒に考えていきたいと思っておりますので、よろしくをお願いいたします。

(事務局)

続いて中井副委員長、お願いします。

(副委員)

中井です。私は三重大学で助手を8年ほど務め、その際に浅野先生と一緒に建築学会などで仕事をしました。その後、民間の建築設計事務所を経て、現在の愛知工業大学に勤務しております。専門は建築計画で、特に図書館建築の研究をしています。日本図書館協会の施設委員会に所属し、昨年5月から委員長を拝命し、全国各地の図書館を調査し

ております。建物がどのような人に、どのように使われるかを研究しており、学術的な観点からお手伝いさせていただきます。よろしくお願いします。

(事務局)

武保委員、お願いします。

(委員)

武保学と申します。南の方の神戸地区で建築の仕事をしています。中心市街地でも仕事をしており、ニッポニアホテルやSAKAKURA BASEの物販エリアの内装にも携わりました。中心市街地での経験を活かしていきたいと思えます。

(事務局)

続いて笹山委員、お願いします。

(委員)

株式会社やまほんの笹山と申します。建築士であり、設計事務所もやっております。また、陶芸のギャラリーを伊賀と京都で運営しております。

(事務局)

伊藤委員、お願いします。

(委員)

伊藤尚美と申します。テキスタイルのデザインと絵などを手掛けております。出産を機に伊賀市に戻ってきました。テキスタイルデザインとは布のデザインで、布に絵をプリントするものです。布のデザインは衣食住に広がっています。世界のいろいろなところで仕事をしており、その経験を活かしたいと思えます。

(事務局)

岡森委員、お願いします。

(委員)

伊賀市教育委員会に所属しております岡森史枝です。私は、ふれあいプラザの通り沿いで育ち、子育てをし、商売をし、ずっと暮らしてきました。まちの移り変わりを見ながら過ごしてきました。今回、市長からは子ども目線でふれあいプラザの活用手法を考えてほしいと言われ招集されました。50を超えた自分にとって子ども目線は難しいと感じながらも、教育委員として子どもに関わる経験を活かしながら参加したいと思えます。

(事務局)

石橋委員、お願いします。

(委員)

石橋保広です。私は中心市街地活性化協議会から参加しています。銀座通りで眼鏡屋を営み、小さいころにふれあいの場所にスーパーがあったころからこの街で育ってきております。商店街には生鮮3品と言われるものがあります。上野の商店街の中では生鮮3品を扱うお店が存続していましたが、ついになくなることになりました。まちなかの衰退を本当に危惧しております。今回は参考資料④「中心市街地活性化協議会からの提言」

について、協議会でプロジェクト会議を持ちました。ふれあいの場所単体で考えるのは難しいということで、周辺にある市が所有している財産とコラボレーションして考えることが良いのではないかと、まとめ切れず4パターンの提言になっています。この辺りをデザイン会議でさらに深掘りさせていただき、伊賀市のメインにふさわしい場所になるように考えていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

(事務局)

谷委員、お願いします。

(委員)

伊賀市と津の方で石材店をしております谷と申します。よろしくお願いいたします。私も上野、伊賀で育ちまして、一時期名古屋で過ごし、中井先生の愛知工業大学を卒業しました。その後、伊賀に戻り、まちづくりに携わってきました。この土地に向き合うと、子どものために何かできないかと思うようになりました。私は旅が好きで、47都道府県のいろいろな場所に行きました。その中でもすごく楽しませてくれるまちがたくさんあります。次は、来ていただいた方に楽しんでいただける、旅の目的地になるような場所にこの場所をしたいと思っています。微力ながら頑張ります。どうぞよろしくお願いいたします。

(事務局)

来光委員、お願いします。

(委員)

来光美希です。よろしくお願いいたします。伊賀市若者会議に所属しており、伊賀市中友田で三重県のお土産食品のメーカーをしております。今回は伊賀市のまちづくりに参加できる機会と聞き、応募しました。よろしくお願いいたします。

(事務局)

山本委員、お願いします。

(委員)

山本です。よろしくお願いいたします。生まれも育ちも上野で、今も上野公園の近くに住んでおります。いまでもこの街で育ってよかったと思っています。会議では皆さんの意見を聞かせていただきながら、自分のできることをしっかりしていきます。よろしくお願いいたします。

(事務局)

ありがとうございました。続きまして、事務局のメンバーを紹介します。初めに本事業の所管である産業農林部長の堀川から、一言ご挨拶します。

(堀川部長)

おはようございます。産業農林部長の堀川でございます。ふれあいプラザの場所ですが、昔は八十三銀行があり、その次には旧上野町の役場がありました。役場が今の旧庁舎のところに移ったのが昭和39年、その後、役場の跡にはニチイ、隣にはジャスコと大型店

舗が2つ並んでいました。当時、本町通は本当に賑わっていた時代がありました。昭和30年代の中心市街地の人口が23,000人を超えていた状況から、現在は7,000人、約7割程度減少している状況です。また、市全体でも20年前（合併時）は10万5千人でしたが、現在は8万5千人。旧市街地、伊賀市全体の人口が減ってきたことにより活力が失われているのかなと思います。住んでいる方はもちろん、来街される方の力を借りながら賑わい、活性化を取り戻していきたいと思います。皆様には前向きな議論をしていただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

（事務局）

続きまして、産業農林部 次長 永岡でございます。

（永岡次長）

産業農林部の永岡です。よろしくお願いいたします。今日は忍者衣装でということでしたが、裏切ってしまい申し訳ございません。この会議に当たり、少し個人的に振り返りました。私は郊外、郡部の育ちで、小学校の頃は田んぼの畦道を走っておりました。当時の上野のまちはものすごく都会で憧れのまちでした。もう一度、現代版のあの賑わいを取り戻したいと思っております。皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

（事務局）

続きまして、中心市街地推進課 主幹の中澤でございます。

（中澤主幹）

中心市街地推進課の中澤です。旧上野市庁舎の改修の主担当をしております。どうぞよろしくお願いいたします。

（事務局）

続きまして、中心市街地推進課 主幹の中林でございます。

（中林主幹）

中心市街地推進課の中林です。この会議の主担当をさせていただきます。皆さんが活発な意見を言えるような雰囲気づくりをしていけたらと考えております。よろしくお願いいたします。

（事務局）

最後に私、中心市街地推進課長の森中でございます。この体制で運営してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

次に、事項6「諮問」でございます。市長から委員長に諮問書をお渡しします。続いて、事務局から会議の目的と今後の進め方について説明します。

（市長）

「旧上野ふれあいプラザ跡地活用デザイン会議」「旧上野ふれあいプラザ跡地活用デザイン会議設置要綱第2条に基づき、旧上野ふれあいプラザの跡地の利活用、整備、運用等に関して、旧上野ふれあいプラザ跡地活用デザイン会議に意見を求める。」「令和8年2月10日」「伊賀市長 稲森 稔尚」

(事務局)

ありがとうございました。市長につきましては、この後別の公務がございますので退席させていただきます。(市長退席)

それでは事項7に進みます。ここからは委員長に進めていただきます。浅野委員長、よろしくお願いします。

(委員長)

それでは、事項7「まち歩き」と「旧上野ふれあいプラザ現状確認」に進みます。最初に、この会議の目的や考え方、まち歩きの説明を事務局からお願いします。

(事務局)

それでは私から、本デザイン会議における検討の考え方についてご説明申し上げます。本事業は、活動の基盤となる「拠点の整備(ハード)」と、そこで展開される「活用事業(ソフト)」が密接に結びつき、一体となった事業として検討していただきたいと考えています。

皆さまに特にお願いしたい視点が2点ございます。

1点目は、「20年先、さらにその先の伊賀市を見据えた議論」をしていただきたいということです。本事業が20年後の中心市街地にどのような風景を残し、次世代にどのような価値を引き継ぐべきか、大きな時間軸で捉えていただきたいと考えております。

2点目は、ソフト(活用事業)は、ハード(拠点の整備)をいかに活用するかによってその内容が大きく変わるということです。したがって、既存建物を活かす「利活用」か、更地からの「新たな整備」か、この選択が将来の中心市街地活性化を決定づけることになります。

まずは第1段階として、皆さまの専門的知見を頼りに「理想の姿」を自由に議論いただきたいと考えています。引き続き、まち歩きの説明をさせていただきます。(資料①に基づき説明)

なお、まち歩きと旧上野ふれあいプラザの建物確認のあと、こちらにお戻りいただき、第一印象や気づきを共有する意見交換の時間を設けております。

(委員長)

ありがとうございました。20年後の未来を決める重要な選択だということが分かりました。まず、まち歩きと旧上野ふれあいプラザを確認しに行きましょう。それでは事務局、先導をお願いします。

(まち歩き、旧上野ふれあいプラザの現状確認)

(委員長)

皆さま、お疲れ様でした。街中歩きと旧上野ふれあいプラザの建物を見て、いろいろとイメージが湧いてきたところかと思えます。それでは事項8「意見交換」に移ります。改めて事務局より、本跡地に関する現状や周辺環境についての資料説明をお願いします。

(事務局)

まち歩きやふれあいプラザの現状確認も踏まえ、中心市街地活性化に関する説明を行います。(資料②、参考資料の説明)

(委員長)

資料の内容についてご質問があればこの後に受け付けます。それでは、まち歩きや旧上野ふれあいプラザをご覧いただいた感想などをお聞かせください。どなたからでも結構です。

最初に石橋委員から、資料1(中心市街地活性化協議会からの提言)について、協議会で先に検討していただいております。自己紹介でもおっしゃっていましたが、4つの使い方を提言されています。よろしければ、議論の経緯等をご説明ください。

(委員)

はい。着座のままでよろしいですか。

(委員長)

はい、お願いします。

(委員)

昨年9月ごろから、旧上野ふれあいプラザをどのようにするかということでプロジェクト会議を立ち上げることになり、私も招集がかかりました。市の説明にもありました8の字の「忍者回廊プロジェクト」が基になっています。資料③の2枚目に載っている図です。これを基に検討を始めました。回廊のイメージを基に検討することで、界隈に伊賀市が所有する既存の建物や、利用できる市のスペースがあります。一例として本日の参考資料2に一部が載っています。この界隈に多くの建物やスペースがあります。地図の上野図書館は本日見ていただいた旧庁舎に移り、今までの場所は空き家になります。これ以外にも、あかもんの方に「北泉家」があります。この周りには市が利用しやすい建物などが多く存在します。

これらから出た意見として、まずは大きな計画、ランドデザインを先に決めないと、ふれあいの場所だけに注力しても、後でランドデザインができたときにそれがふさわしいものなのかわからないという前提の話が出てきました。市もすべてをどのように使うかは決まっていない状況の中でのプロジェクト会議のスタートとなりました。

今日、見ていただいた建物も、見た目の廃墟感があり、見た目にインパクトのある怖さと、昔の建物ということで天井高が低いです。天井高が低いことによる圧迫感があり、どんなにリフォームしても良いものがないという意見が多く、提言の4つの内3つまでは解体ということになりました。4つ目の改修というのも、折角あの建物があるのということから、オールシーズン・全天候型で屋根があり、市民が使えるスペースにしてはどうかという提案です。吹奏楽の発表会などとして使えないか。建物に入る前に言わせていただいたが、2階部分のスペースが使いやすいのではないかとということです。建物を残す場合は、市民がホールとして使えるようにという提案です。

さらに、当初は利活用する方がコストが安くつくのではないかとということもありました。その後、市から簡単なコストの説明があり、最終的には倒してしまった方が安いのではないかと話になりました。潰した後に何か建物を建てるという案が一つ。2、3はどちらかというのと、とりあえずは潰して更地にし、周りの状況が決まってきたから本格的にどのように使うかを考えればいいのではないかと意見です。そうすると公園とかになるのですが、私は伊賀上野商店会の理事長もしており、その立場で市民の方にアンケートを取ったら、上野はいつも暑いので、子どもが少し遊べる親水公園にしていただけ、市民の方が楽しむだけでなく、まちなかを歩き疲れた観光客が休憩したり、今は無いが買い食い・歩き食いのようなものができるとうい。観光地ではそういうのが流行っている。そういうものを買っていただき、その場所で食べてもらう。そういう場所にしようではないかと案です。さらに、有事の際に一時的に避難できる機能を持たせる。ベンチ式のかまどや、ソーラーパネルが載った東屋などを併設し、有事の際にスマホを充電できるなどの機能を考えています。安心安全を担保できるような機能を併設するという意見です。

あと、今後のこととなりますが、来街者が伊賀市に遊びに来ていただいた際に、まちなかだけでなく、伊賀市のいろいろな観光地があります。市が頑張っ、まちなかからバスが出る様な状況になれば、この場所を観光客だけでなく、市民も対象としたバスの発着場という意見もありました。簡単な説明でしたが提案の説明は以上です。皆さんで頑張っ作り上げていきましょう。

(委員長)

説明ありがとうございました。中活協の提案の説明は、提案①～③の3つが解体で、そのオープンスペースを活用するというもの、提案④は今の建物を改修して全天候型対応の施設として利活用できるのではないかと提案でした。

(委員)

20年くらい前に、桃青(旧中学)の上に橋を架けて、桃青の跡地を「おかげ横丁」みたいにすればいいのではないかと議に出ておりました。議論の中で、桃青の跡地の場所ではその場所に留まっしまい、回遊に繋がらない。我々は人が回遊してくれる街をつくりたいと言っ20年が経過しました。で、今、人は回遊しているのでしょうかという話となりますが、結果は年月が経過しないとわからないこともあります。

今回、せつかく良い場所を伊賀市が〇〇と同じような場所にしたいと、中活協の委員があると聞き、寝られなくなり、夢枕に立ち、起きてその絵を書きました。また、中活の説明を聞いた際に、自分の夢が市の中活のイメージに合っいると感じました。今の建物は解体します。解体にかかるであろう金額についても市からの提供資料にあるように数億、利用なら数十億などがありますが、いずれ解体が必要な建物であります。

利活用について、普段使いも想定すると駐車場が必要と考えています。私は基本的に駐車場スペースを確保してほしいと考えています。普段使いできる駐車場が必要です。

南と北に分けて駐車場、浄化槽を入れます。まちなかにトイレが少ない。銀座中央駐車場もなくなる。トイレの配置が必要です。トイレを北と南に設けます。

中央にスペースを設けて、休憩できる場所や家族連れが安心して使える施設にしてください。中央のスペースを中心に南北に分けます。南エリアを屋台村。高知県の「ひろめ市場」のイメージです。観光客も地元の人でも利用する。地場のものをそこで食べることができ、昼間から飲むこともできる。非常に賑わいがある。そのような場をつくりつつ、オープンスペースではキッチンカーを集める。オールシーズンで使えるように大屋根を建てます。

北側ですが、伊賀市にはいろいろな美味しい店がありますが分散しており、まとめて行きにくい。そこで、伊賀市の特産品や飲食店を集めます。セレクトショップです。こじられたスペースを作ります。あとは、アンテナショップやチャレンジショップを設け、若い人やスタートアップが挑戦できる場を設ける。広場の維持はテナント料で少し充てることもできる。最後は、防災の観点も考慮し、有事の際に中央の広場で食事などができるようにします。これらを提案します。

このような会議をした場合、ゼロからは本当に難しいので、先生方にアイデアを出していただいて、そこに意見をするような感じですが、今回の会議は皆さんの意見をもとに、もう少し具体的に組み立てていけるような感じがしており、期待しています。説明したイメージに関する法的な問題など細かい点は精査が必要ですが、ここに皆さんの意見を加えれば良いものができ、マスコミにも取り上げてもらえるのではないかと、その先には新たな賑わいが生まれると思います。一つのたたき台にしてもらえればと考えます。

(委員長)

ありがとうございました。他にいかがでしょうか。はい、どうぞ。

(委員)

先ほど、久しぶりに日中の町中の商店街を歩きましたが、定休日なのかもしれませんが、ほとんどお店が開いていないように見受けられました。シャッターが下りている状態。開いている店はあるのかというような状態だったと思います。先ほど市役所の堀川部長が、以前は2万人ぐらい住まれていたとおっしゃっていましたが、それは何年前なのか分かりません。現在はそうではない。さらに、20年後を見据えてこのエリアをどうするかという計画をしているときに、その時、人口はどの程度減少し、お店や家も空き家になる可能性があるのか、どうなっているのか。

例えば、人口がどのように推移するのか。空き家が増えるかは別として、現状で古民家のデータすら把握できていません。

まず人口の推移や空き家のデータ等を示してほしいと感じています。その上で、高齢化の状況、70代から90代の独居の方がどのくらいいるか、その分布を知りたいです。今後このエリアがどのようになっていくかを把握しながら検討を進めていきたい。その中で必要な機能は何かを検討するのも一つの方法かと思っています。

(委員長)

将来人口のデータ等は市にもありますよね。

(事務局)

あるはずですが、探します。どの時点のものをこの場で示すことはできませんが、統計資料もあります。

(委員長)

次回に提出をお願いします。

(委員)

委員がおっしゃるように、今後人口は減っていく。消費されていく時代ではなく、縮小していく社会の中で、皆さんにとって良い形で着地できるかということだと思います。職業柄、どのように使おうかという議論になるのですが、難しさを感じるのは、100人いれば100通りの意見が出ることです。買い物が不便だからスーパーにしてほしいという意見があります。子どもがいるから公園にしてほしいという意見もあります。皆さんは世代や立場によって欲しいものが異なります。

それぞれ自分の立場で欲しいものは言えますが、外から来る人、つまり観光客の人にも使っていただけるなど、全体を見た際の最適解は何なのか。個人が必要な機能ではなく、もう一段上の議論として、町やこの場所にとって大切なものは何かと考える。自分のことや、ある特定の人だけにとってもではなく、広くみんなのことを考えて議論することができるのかなと思います。

この場所は解体です、となると、すぐにハードの話になってしまいます。今後何十年も上手く活用して、賑わいのある場所であり続けることは難しいし、今まで同様、箱モノを造るとその後活用できず、老朽化するという今と同じことになります。まち歩きの際に忍者体験施設を通りました。何十億もかけて整備したと聞きました。多くの資源を使い、罪深いと感じた。これだけのお金や資源を使って作る限り、長く多くの人に愛してもらえる形にしないといけない責任がある。それゆえに慎重に検討すべきだと自分自身は考えており、そのような形で議論が進んでいくのではないかと考えています。

(委員長)

ありがとうございます。本日の資料の中に過去の経緯もあります。この場所の議論は過去から多くの方が議論していると思うので、そのことの整理が必要です。今回の会議で白紙から議論するのではなく、中活協からの提案もありますし、過去の議論の結果もあると思います。また今回このような会議が立ち上がったということは、その課題が未だ解決できていないということです。過去の検討の経緯は大切です。その部分は委員の皆様と確認していければと考えます。

(委員)

伊賀市の美術館の構想について、現在、検討する委員会が立ち上げられて検討をしています。芭蕉記念館の老朽化に伴う移転です。他にも同時進行している検討会の情報があ

れば、その内容も踏まえて検討することができます。市が進めている検討会の内容や進捗等も提供していただきたい。

(委員長)

その様な情報はありますか。

(事務局)

芭蕉記念館は場所の選定をすとは聞いています。

(委員)

あと、だんじり会館も観光協会の事務局がSAKAKURA BASEに移り、あり方の検討を進めています。維持できないようです。建設した際は、だんじりを展示することで大きな収益を得ることができ、その収益の一部をだんじり町に分配されるというものでしたが、実際は全然ダメでした。後々はだんじり会館も利活用を検討することになる可能性があります。同様に利活用を検討すべき建物はたくさんあります。

(委員長)

わかりました。先ほどもグランドデザインの話が出ました。すべてのことがあの場所で完結することはできません。利活用を検討する際には、同時に動いていることは把握し進める必要があります。皆さん、一人一言ずつ考えを話してもらえればと思います。

(委員)

歩いていて、町が密集していることもあり、明るさを感じない。公園のような空地にするのも一つと思う。ただ広場ではなく、防災機能や、子どもからお年寄りまでが使える場所。見本になるような場所になったらいい。日本の中でも見本になるような建物がここにあってもいいかなとも思う。まちのデザインとして、少し残念なのは、旧上野市庁舎の整備や伊賀流忍者体験施設など、新しく人を集める施設ができたが、うまく誘導できていない。知られていない。このことも頭に入れながら検討を進めることができればいいのではないか。

(委員長)

検討の段階でいろいろな事例を参考にすればいいと思います。

(委員)

市の方から新しい事例をどんどん提示してもらいたい。

(委員長)

ありがとうございます。次、どうぞ。

(委員)

提言1にあるように防災機能は大切。そこに住んでいる人が安心安全で生活できることが大切。まちとしても、賑やかだったころを知っており、今日改めてまち歩きをするとすごく寂しく感じた。専門的なことはわからないが、少しでも良くなるように思っている。

(委員長)

ありがとうございました。今お話しいただいたように、地元の人も防災に関する心配があるようです。伊賀上野城下町は建物が密集しているのです、簡単な避難スペースがないことは事実です。地震が発生した際の建物の倒壊や火災が心配である。建物すべてが耐震補強されていると安心ですが、倒壊して火災が発生すると延焼を止める空地が無いので一気に火が広がる。このことから防災は非常に大切だと改めて感じました。ありがとうございました。

(委員)

今の防災の話からですが、上野のまちの地形は小高い丘のようになっており、水が足りない。池はなく、お城の堀くらい。以前は銀座中央駐車場の地下には防火水槽が敷設されておりましたが、その場所も売却してしまいました。私、理事長ですが、売却しました。次の計画では防火水槽は撤去されるようです。意見としては、防火水槽の代わりになるものを整備するのもこの場所の地下が良いのではないかと。地下に水をためるのであれば、上に親水公園。防火水槽の水を循環させたら良いのではないかとという意見もありました。

(委員長)

ありがとうございます。同じ藤堂藩でも隣の名張は水が豊富です。すごく対照的です。続いて岡森委員、お願いします。

(委員)

久しぶりに近所を歩き、何もないと感じました。城の下には小中高と学校が並んでいる。昔はお店がたくさんあった。今は何もなく、高校生とかもお茶をする場所もない。住民としては公園が欲しい。私は近所に天神さんという神社があり、そこで遊んでいましたが、公園とは違う。あと、伊賀は海に面していないことから津波の心配はない。このことで、地域の防災意識が低い。教育委員として海の近くの学校に視察に行った際に、伊賀に地形が似た場所であるにもかかわらず、地震が起きた際には直ぐに山手の方に逃げる訓練をしているのを見ました。また、集まる場所も整備されていた。それと比べると、伊賀上野城下町は密集しているし、道も狭い。建物も背中合わせで、一度燃えると一気に広がる。そう考えると石橋委員がおっしゃったように防火水槽的な物が必要。何が怖いって水が無いことが一番怖い。そう考えると防災の視点は大切です。

(委員長)

ご意見ありがとうございました。続きまして来光委員、お願いします。

(委員)

私は伊賀市若者会議に所属しており、若い世代と話をすることが多いのですが、普段は市役所の会議室で会議をしており、少人数の時はスタバや喫茶店などで話をします。ただ、あまり席数がないこともあり、集まりにくい。伊賀には大学がないので、進学の際に伊賀から出ていく。高校から大学の時、自分が住む場所や働く場所を決めかねている

ときに、町として私たちをターゲットにされていないと感じる。やがて30代になり、住む場所を自分で決めることができるようになった際に、果たして伊賀を住む場所とするかは疑問です。相当、町に愛着がないと戻ってこない。この場所には若者が集まれる場所がいいと思う。

(委員長)

今日はまだ具体的な話をする予定はないですが、若い人が集まるのはこのような場所がいいというイメージはありますか。

(委員)

名張にコワーキングスペースがありますが、空いていない時もあります。目的を持った人が集まる場所。プリンターなどがあり、専門的な本などもある場所。都会などではボードゲームがおいてあり、交流ができたり、カフェがメインではないがカフェ使いができる、そういう場所があればいい。

(委員長)

ありがとうございます。一通り皆様に発表していただきました。中井副委員長、いかがでしょうか。

(副委員長)

資料を見させていただき、皆様のお話を聞かせていただきました。私自身が計画に関わった京都の河原町、先斗町という飲み屋街ですが、そこに立誠小学校があり、廃校になりました。廃校になった途端に周辺に風俗店ができだした。学校があるときは周囲50mは営業できないと風営法で決められています。このことに対して地域の人がまずいと考へ、学校の類似施設として図書館を造ろうとなりました。地域の人がNPOをつくり運営する図書館を作り上げた。廃校は一部を残し、ホテルができ、敷地の角々に4畳半程度の図書館を造った。最大の目的は50m以内に風俗店ができないようにするためです。残りの敷地は人工芝を敷いてあるだけ。前が高瀬川で、土地柄、多くの人が行き交い、食べ歩きの人もあり、その人工芝でゴロゴロしている人が多くいる。皆さんの今日のお話を聞いていたら、雰囲気に近いなと感じました。

他の廃校の利活用の例として、福岡の例で何もない広場だけというのものもある。都市の中に広場を造るというのもあり。もう一つ、輪島の例があります。輪島では「カブルー」という高齢者施設の例がある。古い民家を2軒、3軒とまとめて買い取り、繋いで一つの施設として利用している例。高齢者施設としての利用かつ、カフェ、ジムとしても利用している。福祉法人が運営しているが、まとめて買い取り、利活用。施設には必ず温泉を掘る。この温泉は地域の人でも利用できる。地震があったが、そこは火災を免れ、施設が残った。皆さん被災してお風呂に入れなかった状況だったので、皆さんに喜ばれたようです。

本日資料を拝見し、まちが非常に密集しているなと思いました。今は集約型の施設整備が全国で進められていますが、その潮流に抗うように敢えて分散型で進めているとこ

るもあります。有名なのが海士町。島根県の隠岐の島で、島丸ごと図書館とし、ホテルや港、公共施設などあらゆる場所に本棚を置いて、それらを分館としている。本をテーマに島を繋いでいる。公共図書館として運営している。物理的に集約しても内容がバラバラなところもある。何かとっかかり、キーワードがあれば良いと思う。

私は図書館の研究が主なので図書館に着目しますが、「旅する図書館」というのもある。本の後にスタンプを押し、別の図書館に返すという、旅する図書館という仕組みです。何かのユーモアと、あとは子どもたちが広場から出ていけない措置、囲いが必要。そのようなスペースがあれば子どもたちは自由に遊ぶことができる。過度な建物を建てる必要はなく、周囲を囲い、真ん中に安心安全な場所を確保し、自由に出入りができる場所。あとは、点在している施設を繋ぐ何かアイテム、キーワードがいるのかなと思う。例えば新しい図書館ができる。分館が使われるから中央も使われるというスノーボール的な現象があるが、きっかけがないと行かない。この場合も何かきっかけとなるものが欲しい。きっかけができれば、最終は大きな施設に向かえばいい。今回の場合は図書館が移るが、旧図書館に関して、移ることで図書館機能をなくすのではなく、補完施設として残すのもいいのではないかと考えます。

解体か改修かについては、皆さんは解体のご意見が多いと思うが、安心安全な施設をこの中に入れ込むということも考えられると思います。いろいろ詰め込みましたが以上です。

(委員長)

今後の条件次第ではありますが、検討の可能性は広がるということですね。

(副委員長)

そうです。

(委員)

よろしいでしょうか。非常に未来のあるお話もたくさんあるのですが、伊賀市のあの場所に何か建てることのもリスクも検討する必要があると思います。このビルの1階にコンビニエンスストアがありました。いわゆる一等地の場所のコンビニですら出ていかなければいけない状況です。今までから、おしゃれで都会のようなお店を出したいという子は沢山います。その子たちは出店するも、伊賀市の人口ではそれを支えることができない状況です。

伊賀でお店をするとなると、洒落たオイスターバーなど、特化すると難しいです。今、若い子が麻婆豆腐専門店を出し頑張っている。とっても美味しい。ただ、そういう店が成功するためには分母が多くないと難しい。都会で分母が多いと流行るが、伊賀市の場合分母が少ない。そこに抗うには、名張や甲賀、京都からも来てくれるような魅力あるものができればそれに越したことはない。それを個人でとなると非常に難しいと思う。パワーのある若い子をサポートできる街になればいい。

伊勢のおかげ横丁は売り上げに対する家賃です。売り上げがあれば家賃は発生します

が、売り上げが無ければ家賃はかからない。継続が無理であれば次の人に代わっていくシステム。この場所に空地をつくり、通りを分断することについて、商店街は繋がっていないと魅力がなくなる。どうしても間が空くと魅力が薄れる。あの通りでは、今の建物の手前にジャスコがあり、現在駐車場で空地、その次に正札屋があり、その隣が新たに空地になるのはどうかと思う。このことを踏まえ、公園にするにしても通り沿いはチャレンジできるようなテナントとして貸せるような場所にしたい。ニッポニアから胡月堂、大西屋と、あのように入が開かないようにと思う。奥は公園でもいいと思う。

後はプロジェクト会議でも出ましたが、通りの無電柱化。腹を括って進めるべき。電柱は必要なものですが、観光地では地域の魅力にとってはマイナス。本町通、城見通りはどうしても電柱が邪魔になっている。ものすごく素敵な写真が撮れるのに電柱を消さなくてはならない。こういうことも含めて、ふれあいを考えていけばいいと思います。

(委員長)

ありがとうございます。コンビニが消えたり、ふれあいについても、スーパーが経営できれぱずっと続いていたはず。現状の中でリスクも考えながら、実現可能な計画を考える必要があります。

(委員)

補足すると、解体した家の後にハウスメーカーの家が建つ場合が多い。一つの家をつぶして3棟くらい家が建つ。その家は直ぐに売れる。決して地域に魅力が無いわけではない。若い子もこの地域に住みたい。理由は文教地区で学校が近い。ゆめが丘だと学校に通わせるのに定期が必要。ここに住んで上高であれば自転車があれば十分。あと、病院など、ある程度のものは近所に揃っている。人口が減ることは理論的にはわかるが、そこに抗うこともできる。何があれば若い子は住むのか。こういうのがあればそこに住みたい。古い家はいずれ壊されるが、そこに新しい家が建ち、若い子を買う。駅も近いし、一通りのものがあり便利という魅力があるようです。このことで人口減にも抗うことができる。

(委員)

すみません。この地域に高齢の方も多く、スーパーがなく、わざわざ郊外まで行く必要がある。街中では押し車を押すお年寄りも多く見かける。その方たちが住みやすい街になればとも思う。

(委員長)

便利という意見もあります。

(委員)

全てが揃っているのですが、食材、食料品を買うところだけがない。

(委員長)

全国的にも買い物の課題は言われています。移動販売など、スーパーの形態も変化してきている。週末移動販売など、事業者も工夫している。このようなものをうまく活用し、

あの敷地の中で営むことができれば、地元の人が頼るような場所になる。このような考え方も選択肢の1つです。

(委員)

福岡や宮崎のイベントに、地元地域のものを使って販売する条件で呼ばれたことがある。そのとき、県内の食材などが一堂に集まっていた。三重県の場合はそれが難しいのかな。例えば大阪の人が伊賀のこの場所に来て、伊賀のものを使えば県内の様々なものが使える、となれば人は来る可能性があると思う。そういう場ができればいいかなとも思う。

(委員長)

ありがとうございます。次回以降、是非参考になる事例がありましたら紹介していただければと思います。

(委員)

いろいろな話を聞いて、あそこに必要な用途を考える上で、使う人が生活者や外から来る人、移住者などであることを考えるときに、今後どのような人口推移になるのかや、観光客の状況、外から来る人の数との方がどのような動きをしているのか。宿泊の有無、食事など、そんな情報があれば議論が進むかなと。移住に関してもどの程度増えているのかなどの情報。どのような取り組みが増加に繋がっているかなど、エビデンスがあれば具体的な話ができるのかなと。

(委員)

この先の市のビジョンが大切だと思います。商売屋の目から見て大事なのはターゲットです。観光と地域の両方となると、どうしても振り切ったものがない。伊賀市は観光立市に手を挙げるも、なかなか観光客が増えていない。地域の商売人も観光客相手に商売している人は少ない。地元中心。観光で儲けられるのであれば商売人は直ぐにシフトする。現実はそのようではない。こういう話をするときの市の思いは大前提になる。本当に中途半端なものになり、後で後悔する。市のスタンスに関する情報も必要です。

(副委員長)

4月に新しく図書館がオープンします。一般的に新しい図書館ができると、社会見学で小学生を連れてきて図書館で過ごすということが起こります。市内の学校も同様だと思います。例えば滞在中のお昼ご飯をどこで食べるのかなど、今日の議論で8の字の話を聞いていると、当然、外からの人ということもありますが、内の人を意識していることも感じる。図書館に来た人を次にどのように動かすかということ意識するのも良いかもしれない。

(委員長)

どうもありがとうございました。様々な可能性が考えられます。予定時間も経過しておりますので、最後に少しまとめさせていただきます。

この場所には様々な可能性があり、検討する余地がある。今回の建物については過去から様々な検討がされ、意見が出ています。全くの白紙からの検討というわけではない

という点。景観審議会での検討、伊賀市の景観計画では、ふれあいプラザがある北側の通り沿いについては外観は町家風、高さ規制に反しているのですが、将来的には高さ規制に合致し、周囲のまちなみにあわせる方向です。これら景観計画に関する部分も、デザイン会議で検討する際に考慮する必要があります。

今日皆様から意見をいただいたので、様々な角度から検討していきたいと考えていますが、出発の前提条件として、この土地には建物が建っている。従って更地ではなく、建物が建っている。そこでまずは建物の現状がわからないと進まない。つまり危険だとわかれば除却する根拠になっていきますし、建物調査をしない状況では、まだ除却することも活用することも言えない。また、活用についてもいろいろな選択肢がある。例えば、通り沿いは残し、奥はすべて除却するという除却の方法もある。建物調査の結果、全部除却した方が費用対効果の視点から新しい空間を実現しやすいなど、いろんな検討が必要になる。

まずは建物調査を市の方で進めていただき、その結果が出たら、活用できるのか、除却した方が良いのかがはっきりします。そうすると、その結果と一緒に使い方について議論できる。皆様の思いを実現する前提条件として、建物が使えるのか使えないかの判断が必要です。

個人としては、旧上野市庁舎を保存するか新築するかの議論の際に検討会の委員長をしていましたが、旧上野市庁舎の場合はこちらの可能性もありました。取り壊して前面建て替えの可能性、南庁舎・北庁舎・中央公民館がありました。耐震診断をして保存の可能性の高いものは残し、危険度の高いものは除却するという案、全部残すという案がありました。方向性を決める前には、まずは建物調査で、建物が使えるか使えないかをはっきりさせないと具体的な提案ができなかったと感じました。

今回のふれあいプラザについては、本日説明がありましたが、過去、いろいろな使い方がされ、5年前に民間事業者売却されています。もし民間事業者が採算が取れるビジネスを展開できるのであれば活用されているはずですが、でも、いろいろ諸事情があり、ビジネスには乗らなかった。石橋委員がおっしゃるように、町の現状は厳しく、大きな夢物語を描いても実現は難しい。民間事業者に売却もビジネスに乗らず、市に返還されたという経緯。参考の条件として、どの程度まで夢を描くことができるのか。

建物がある敷地なので、躯体は使えるが設備は全部使えないなどの条件を皆様にお見せし、次にそうであればどの方向性で検討するかを委員会の皆様にご意見を伺い、中活協が提案したように具体的にはどうすればいいのかを決めていけばいいと思います。市の方はいかがでしょうか。議論の最初の方向性を決める上での資料が欲しいということです。

(事務局)

委員会から求められた資料は内部でも調整しながら、2回目の会議で提出させていただきます。

(委員長)

確認ですが、市は建物調査はしておりますか。

(事務局)

どの程度の情報があるかも含めて庁内で確認します。

(委員長)

わかりました。本日皆様に現状を見ていただきました。仮に建物は使えても、設備は全部更新・新設する必要があると思われれます。方向性をどうするにせよ、正確な調査が必要。その結果を見ながら、その後を決めていきたい。医者と一緒にです。治療方法を決める前に検査するようなイメージです。今回の場合は、皆さんにあの土地・建物の治療方針を決めていただきます。ついては、まずは現状を知る必要があるということです。

委員から出た人口のデータや観光客のデータに加えて、建物調査のデータがあれば前に進めていけそうです。本日は様々な角度から意見をいただきありがとうございました。時間になりましたので意見交換は終了します。今日、出しそびれた意見等がありましたら、2回目、3回目に出してください。質問がございましたら事務局までお願いします。それでは進行を事務局に戻します。

(事務局)

ありがとうございました。本日ご要望がありました資料は揃えさせていただき、2回目を開催したいと考えております。2回目の開催は5月下旬から6月上旬になることをご理解ください。本日はありがとうございました。

————— 12時20分終了 —————